

令和4年度 第3回 曳馬小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和4年9月28日(水) 午後1時10分から
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 鈴木厚(会長)、飯尾忠弘(副会長)、川井啓介、小楠和子、加藤美智子、飯尾智弘、池村俊典(学校支援コーディネーター)、丸茂早織、中津川涼
- 4 欠席委員 中田篤志
- 5 オブザーバー 瀧尚也(曳馬協働センター)
- 6 学校 竹内孝夫(校長)、花井清孝(教頭)、影山重広(CS担当)、内堀邦子(CSディレクター)
- 7 教育委員会 鈴木陽子(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - (1)「学校支援の在り方」について(鈴木厚会長)
 - ① 具体的な教育活動と支援
 - ② 成果と課題 今後について
 - (2)「学校の課題」について(影山主幹教諭)
- 10 会議録作成者 内堀邦子(CSディレクター)
- 11 会議記録

司会の花井教頭から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1)「学校支援の在り方」について(鈴木厚会長)

① 具体的な教育活動と支援

コミュニティスクール協力依頼の一覧の通り(別紙参照)(影山主幹教諭)

- 一覧の中に記載されている内容の補足
- 太字は今年度実施もしくは実施予定
- 曳馬小学校の学区内に大和ハウスの浜松支店があり、地域共生活動の一環として、「地域の学校に協力していきたい」と昨年度末に申し入れがあった。金銭ではなく人員を出して、学校が困っていることに協力していくとの申し入れであったため、職員の手が回らないことを協力してもらっている。

7月からの活動報告

- 7月はスイスイ池及び池周辺の雑草の清掃
- 8月は猛暑の中半日学年の花壇の草取り。
- 9月は低学年の14クラス209台の机やいすの高さ調整を工具持参で行ってもらった。

- 今後も月 1 回協力してもらう予定。この活動によって生み出された時間を教職員は子供と関わる時間に使っていこうと話している。(花井教頭)
- 授業への教育活動の具体的な支援の現状について、飯尾智弘委員から説明。(影山主幹教諭)
- 家庭科の授業の支援は、ほぼ毎日行っている。ミシンのない家庭が多い昨今、全く見たことないミシンを使ってエプロン製作を行っている。家庭科の授業は、聞きなれない言葉や道具を覚えることが多く苦手を感じる児童が多いので支援は必要。例えば、ミシン練習の際に、壊れているミシンがあれば、前に持ってくるように声をかけた。10 台持ってきたミシンを確認すると、1 台以外は上系の掛け方が間違っていただけだった。
- 現在ボラティアとして支援に入っている方は学区外に住んでいる。学区内に成人したお子さんが住んでいて、協働センターだよりの募集を見たお子さんからボランティアの話聞いて支援に参加してくれたという経緯。
- 現在家庭科の授業支援は飯尾智弘委員とその方の協力があり、3 人で 27 人(1 クラス)の児童に教えることが出来る。(飯尾智弘委員)

② 成果と課題 今後について

- 家庭科課題は授業時間内に終わることが出来ずに、空き教室を使い、休み時間や昼休みに補講を行っていたのでとても助かっている。(影山主幹教諭)
- 北校舎の特別教室にはエアコンの設置がされていないため、真夏の猛暑の中の授業は窓を開けて扇風機を回しても汗びっしょりかいてしまう。早急に改善をお願いしたい。(飯尾智弘委員)
- 予算を考えて教育委員会と相談し対応していく(竹内校長)
- 今後活かせるように CS 支援依頼書・対応確認書のフォームを作成した。この書類に教職員が依頼内容を記入し、その内容を基に学校支援コーディネーターが交渉を行う。
- 交渉成立後は、先生と担当で詳細内容を話し合っていく。
- CS 支援依頼書・対応確認書を作成することによって、今後の対応依頼の内容を残し、後に情報資料として学校に残るようにする。先生もこの書類を作ることにより、依頼しやすくなるのではないか。
- 現在進行させている 4 年生の総合的な学習時間の校外活動の件は、夏休み前から協働センターの方と 4 年生の学年主任の先生と調整しながら進めている。
- 交渉は学校支援コーディネーターが行い、具体的内容は先生と引き受けてくださった方で詳細を話し合うことをお願いしたい。

- 書写の授業の支援を行った際、児童が心待ちにしていることが実感できてうれしい。
(池村委員)
- 家庭科の支援の状況と学校支援コーディネーターの進捗状況の報告内容についてのご意見等がありましたら、お願いします。(鈴木厚会長)
- ボランティアや行事、支援に参加されている方に怪我など何かあった場合の責任の所在について教えてください。(丸茂委員)
- ボランティアに来ていただいている方にはボランティア保険というものに参加して補償できるように備えている。(鈴木陽子)
- 行事の詳細を記録に残しておくことが、何かあった場合に責任の所在が明確になる。
(竹内校長)
- 大和ハウスからの申し入れは PTA 活動の一環ですか。(川井委員)
- 大和ハウスからの協力依頼は PTA 活動とは別。今回はたまたま卒業生の親と現在通学している児童の保護者が窓口になっての申し出だったが、PTA 活動ではない。
(花井教頭)
- 公立の学校の資料に一企業の名前をのせることは、誤解を招く可能性がある。地域の団体としての協力もしくは PTA 活動の一環としての掲載の方が良いのでは。
(川井委員)
- PTA へ大和ハウスからの協力募集の申し出があったが、PTA 活動と企業の活動は違うため断った。(中津川委員)
- 学校の中で、企業名を大々的に出すのではなく、地域の企業団体等の名称が適当ではないか。(川井委員)
- 市民協働という考えを基に、PTA や協働センター、企業など多くの協力を得ながら、教育活動を充実させていきたい。企業の名前の出し方については検討し、一線を画した関係を保ちながら多くの協力を得られるようにしていきたい。(花井教頭)
- 学校の書面に地元企業と表現するか、企業名を具体的に上げるかで、受ける印象は変わる。企業は CSR(企業の社会的責任)が求められ、その結果地域の協力を多く得

られることはとてもありがたい。今後感謝の気持ちは持ちつつ、企業の名前の取り扱いは慎重に配慮する必要はある。(鈴木厚会長)

- 学校支援コーディネーターとしてなかなか手が回らないことを、企業の協力で多くの活動の協力を得られたことはとてもありがたい。名前の取り扱いについては検討の余地があるが、企業に協力依頼することは営利目的でない限りは良いことだと思うし、それがないと今後コーディネーターとして学校支援の呼びかける活動は成り立たない。ぜひ、多方面から協力してもらいたい。書類の書き方は神経を使う必要がある。(池村委員)
- 学校の書類の中で、企業名の取り扱いには企業名ではなく地元企業などの表現を配慮する必要があるが、企業からの協力を仰げるのはとても良い。個人単位ではできない活動をお願いできることは教育活動にとっては大きな力となる。(鈴木厚会長)
- 多人数の定期的な協力依頼を引き受けてもらうことは、大きい企業ではないとできないこと。この協力はうれしいことなので、大切にしていきたい。これをきっかけに、地域の他の企業の協力を得られるようになってくれたらありがたい。書類には地元の企業として地域貢献の活動内容として表現する。(飯尾忠弘委員)
- 11月27日のPTA奉仕活動について、大和ハウスから協力依頼があることを学校からPTAに連絡があった。地元企業の地域貢献という立場からの協力が得られると、先生方の負担やPTAの負担が軽くなるのでありがたい。(中津川委員)
- 営利が絡まない地元企業からの協力活動ということであればとてもありがたい。(丸茂委員)
- 協力を断る必要はない。企業の地域貢献活動としての協力をしてもらう。営利目的にならないように適正な関係を保ちつつ協力してもらう。(鈴木厚会長)
- 皆様の心配を真摯に受け止めて、多方面からの協力を得て教育活動を充実させていきたい。(花井教頭)
- 熟議が行われたということで、この内容を承認していただいた。(鈴木厚会長)

(2)「学校の課題」について(CS担当教職員)

全国学力調査について

- 静岡県は10年前全国最下位だったが、ここ4年間曳馬小学校は全国平均を上回ってい

る。(学校便り第4号参照)

- 国語、理科は全国平均を大きく上回っている。数学も上回っている。
- また、児童の自己肯定感が高いことがわかった。
- 現在の課題は、ICT活用がまだできていない。地域での活動が、コロナの影響で参加する機会が失われているので、活動を増やしていきたい。
- 今後教職員の働き方改革を進めていきたい。具体的には学校以外の担うべき業務、連絡調整、通学班の調整などについて精査していきたい。
- 11月に自律登校を実施してその後アンケートを実施予定。そこから、問題点や課題をあきらかにして、今後について検討していきたい。(影山主幹教諭)

- 旗ふりの時間が延長される可能性が出てくる。(丸茂委員)

- 旗ふりとは別問題として考えていく。(影山主幹教諭)

- 登校班については、色々な意見が出ている。登校班については、デリケートな問題がある。試験的に自律登校するのは良いと思う。(中津川委員)

- 登校班が、色々な問題があることに驚いた。旗ふりの方から登下校時の子供の行動について気づいたことなど話が上がってきている。地域みんなで子供を育てていくことは大事だが、旗ふりに参加して感じることは、学校や登校班に求めるばかりではなく、家庭が登校についての責任があるということを実感して欲しいと感じている。お互いの立場に感謝することによって成り立っていく。学校や旗ふり、登校班はサポート機関であって、基本は家庭が個々の子供に見合った通学の責任を負うものという自覚が欲しい。
- 事故や事件に巻き込まれる危険を防ぐため、登校班での通学はいろいろ大変だが、必要があると思う。(鈴木厚会長)

- 登校班での登校は難しいことがあった。旗振りの方がいる間に通学するようにさせている。(丸茂委員)

- 隣の上島小学校は個別登校を行っている。(川井委員)

- 以前、曳馬小学校も個別登校を行って事故があり、登校班に戻った。(加藤委員)

前回の改善要望ですぐ改善できたことについて

- あいさつ運動については、担任はそれぞれの学級に時間を取った方が良いので、フリーの先生が行う。
- 職員の企画委員会の開始時刻を早めて、話し合いの結果を即時各学年に連絡出来るよう改善した。(影山主幹教諭)

- 一度自律登校を1か月間行い、アンケートを行うことでいろいろな意見が出てくると思う。検討し結論を出す方が納得できる答えにたどり着ける。今後、保護者のアンケートを実施するということは、いろいろな意見が出てくる。改革についての熱意を感じる。運営協議会として協力していきたい。(鈴木厚会長)
- いろいろな熟議が深まってきた。今後は、1つずつ解決につなげて欲しい。(鈴木陽子)

(2)学校の課題についても協議の結果、承認した。(鈴木厚会長)

- 今後の予定は、学校運営協議会を通じて学校評価について12月にアンケートをお願いする。第4回運営委員会の議題に挙げる予定。(影山主幹教諭)
- 学校支援コーディネーターは大変すばらしい仕事を進めてくださって、成果が出ている。(飯尾忠弘委員)

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和5年2月3日(金)午後2時00分から多目的ホールで開催する旨の報告があった。